

子どもの発案によるあそび (2)

三歳児——二、三学期

田 中 都 慈 子



二学期

子どものようす

一学期に比べて一人ひとりの個性がはっきりしてきたように思われる。どんぐりひろい、運動会、遠足、クリスマス会と特に行事の多い時期であったが、一段とあそびが発展し、水を使つての砂あそび、えのぐで絵をかくなど、活発にあそぶことができた。

あそびの発展

(1) 旗づくり

一学期からの続きで、わりばしに色がつけたものである。

のりの使い方が、前よりもじょうずになった程度。

(2) 風車づくり

一学期の続きで、もようをくふうしてかくようになった。

(3) ウルトラセブンごっこ

ブロックでつくったビストルをもち、制帽のゴムを上にはめて、カウボーイハットのようにしてかぶる。特定のグループができ、なかなか仲間に入れてもらえなくて、苦労している人もいた。二学期いっぱい続いていた。

(4) 汽車ごっこ→食堂車ごっこ→救急車ごっこ

椅子と積み木を使った汽車ごっこをしている時、お茶やお芋などを売りにくる人ができて、食堂車ごっこがはじまった。ままご道具を運んできて、汽車に積みこんだ。そのうちに、ままご

とあそびをしていた人たちが「赤ちゃんが病気になったのでせてください」といって乗ってから救急車にかわる。二、三日食堂車、救急車ごっこが続いた。

(5) 人形げきあそび

朝、ブルーナの絵本のパンフレットをのりつけ紙に使うと部屋にもってきたら、それを見つけて、切りぬき、わりばしにはり、ペープサートのようにし、ままごとコーナーを舞台にあそびがはじまった。会話の声は小さくて聞こえなくなるので、時々、観客が舞台の人とけんかすることもあった。切符をつくる人もできて、時々思い出したようにあそんでいた。

(6) ロケットづくり

小箱やヤクルトのあき容器を使ってロケットをつくる。

(7) ケムシづくり↓びっくり箱

オブジェテープを二本(二色)をあみこみ、五歳児がつくってくれたのをまねしていたが、それをふたのついている器(アイスクリームやプリンをあき容器)の底につけ、ふたをとるとそれが飛び出すようなびっくり箱をつくりはじめる。上に顔をかいたりしたのもあった。

(8) 時計づくり

一学期の続きであるが、ベルトの部分の紙を切ってついたり、

オブジェテープを使うものもあった。数字を自分でかいたり。点で表わしたりする人もいた。

(9) 粘土のどんぐり山

どんぐりひろいに行つて、もつて帰ってきたどんぐりを粘土の山にいっぱいいくつつけて、「どんぐり山」をつくる。しばらくつくったものを保存しておいたが、中から虫がでてきたりしてやめになった。どんぐりを目や鼻にして顔をつくったりしてもあそんだ。

(10) 小人のおあそび

朝、「ハイホー、ハイホー」といって部屋に入ってきた子どもがいたので「小人さんなの?」といったことから、小人の話になり、とんがり帽子をつくつて、子どものいうところの「小人のおあそび」となった、とんがり帽子をかぶつて、「白雪姫」のげきあそびまで発展した。スカートをつくつたり、積み木で、家やお城をつくつたりしてあそんだ。

(11) ケーブルカーづくり

空箱に窓やドアをかき、それを糸にぶらさげた簡単なものだが、つくるのをみていたまわりの子どもたちが、それを使いたくて、とりあいとなる。

(12) カメラづくり

誕生会の時に、その月のお誕生の人にあげる写真をとり先生がカメラをもって部屋にみえたことから、カメラづくりとなる。

あき箱などで、かなり形のまとまったものができた。チューブのふたやシャーベットの容器がシャッターやレンズとなった。

(13) 宇宙船ごっこ

積み木を高く積み上げ、中に座席をつくりブロックでピストルをつくり、帽子をかぶってのりこみ、宇宙船ごっこをする。

(14) エプロンをつけてあそぶ

エプロンをつくってというのでリボンと雲竜紙で簡単なエプロンをつくってあげたら、男の子も女の子も、つけておそうじをしたり、はたきをかけたりする。女の子は、何日かそれをつけてあそんでいた。

(15) キリンの製作

五歳児の動物園ごっこを見に行つて、自分たちもつくるといい出し、ダンボールと数個の空箱とセロテープの空き容器四個でつくる。えのぐで色をぬる人、荷づくり用のセロテープで首をつける人がでて、組全体がつくる。いっしょにシマウマもでき上がった。シッポをつけたり、耳をつけたり、たてがみをつけたり細かいところもくふうしてつくった。

(16) サンタクロースのあそび

十二月のはじめ頃、子どもたちが「Sちゃんがサンタクロースになるといいよ」といい出し、Sも「僕なるよ」というので、小人の帽子の時つくったのと同じ帽子を、赤いラシヤ紙でつくり、まわりに脱脂綿をつけ、ひげは、画用紙の上に脱脂綿をはりつけ、耳からかけ、雲竜紙で袋をつくり、ブロックを中につめて、サンタクロースになった。しかし、ひげがのりづけのため、涙がでてるからいやだといい、ひげなしで、しばらくあそんだが、あまりあがらなかった。

その他、めがねづくり、望遠鏡、テープレコーダーづくりなどが、行なわれた。

助言、誘導

二期は、一学期から続いたあそびに加えて新しいあそびが並行して行なわれたが、一つのアそびが、長い時間行なわれるので、種類は多くなかった。主に新しいあそびは、年長組のつくったものからヒントを得たもの、行事などにむすびついものが、みられた。

一学期どちがつて製作を手伝うだけでなく、材料の使い方、セロテープ、のりのつけ方などを、その機会に指導したが、子どもたちは出来ばえよりもつくる過程を楽しんでいたようだ。教師の

誘導であそびがもりあがったのは、(5)人形げきあそび、(10)白雪姫のげきあそび、(14)エブロン、(15)キリンの製作、(16)サンタクロースのあそびなどである。子どもたちがだんだん協力してあそぶことができるようになったため、大きなあそびに広がっていったようだ。

三学期

子どものようす

「あぶくたった」や「たけのこ一本おくれ」「かごめ」などの集団あそびが、さかんに行なわれた。天気の良い日は、サッカー（ボールを足でけるだけの）をしたり、霜柱で庭にでられない時は屋上でかけっこをしたり、遊戯室で、マットや飛び箱などを使って十分に遊んだ。活力も、男の子が多いので、発散できるように心がけた。二月から、三歳児二組を一つの組のようにして混ぜて活動させたので、友だち関係は、変化した。

あそびの発展

(1) レストランごっこ

二学期の汽車ごっこ、食堂車ごっこの続きとし、行なわれた。



ままご道具がへや中に広がり、レストランごっこをする。すきなものや注文する人、牛乳のふたのお金をつくる人、ごちそうを運ぶ人などができて、何日も続いた。

(2) 高速道路づくり

大きな積み木を橋げたのように並べ、その上に板をわたし、何

段にもくみたて、その中を連結汽車や、自分のつくった自動車を走らせる。一学期のものよりも、もっと巧妙で、構成員もできてきたようだ。

(3) おやまのおやまのうた（上図参照）

何人かの子どもたちが、節分を前に、鬼の面をかぶりながらあそんでいる時に、そばでおべんとうを片づけていた子どもの口をついて出たうたをかきとったものである。すぐピアノで弾いてみたら、他の子どもたちも寄ってきてみんなであうた。次の日、そのことを覚えていた子どもが、朝の着がえをしながらその続きをうたった。それをきいていた子どもが続きをうたい、しばらくそれが

続き、長いうたとなった。

(4) 手さげづくり

きれいな包装紙とオブジェテープで、簡単な手さげをつくる。帰る時に、自分の荷物をそれに入れてもって帰った人もいた。

(5) ウルトラ警備隊ごっこ

ウルトラセブンごっこが発展したもので、あそびの内容は同じであるが、呼び名が変わり、時々おまわりさんの役もする。ほとんど同じメンバーである。トランシーバーをつくって、「こちらウルトラ警備隊、応答願います」とよびかけてあそぶ。三学期中続いた。

(6) 風車づくり

一、二学期を通して行なわれたものの続き。しかし、今までは、教師が手伝ってつくっていたが、紙を折って切ることなど、一人でできるようになり、わからない人に教えてあげられる人もでてきた。

(7) 積み木の飛行機あそび

小型積み木と大型積み木を使い、へやいっぱい大きな飛行機をつくり、「ブルン、ブルン」といいながら乗る。何台もできることもあり、積み木のとりあいとなった。一台を五、六人で共同してつくっていた。

その他、ロケット、めがねづくりはずっと続いていた。

助言・誘導

三学期になって、クラスとしてのまとまりがでて、安定してあそべるようになった。友だち同士で問題を解決できるようになってきたため、特別に誘いかけることは、少なかった。製作の細かい個所を手伝ったり、材料を出したりしただけで、どんどんあそんでいく状態であった。クラスいっしょにひとつの活動をし、クラスの別をなくしたため、不安定になった人もいたので、個人的に指導することが多かった。

(暁星学園幼稚園)

変更のお知らせ

これまで毎年六月にお茶の水女子大学附属幼稚園で開いてきました「幼児教育実指研究会」は、当大学附属校園の話し合いの結果、当分休むことになりました。

従って秋には行なわないことになりました。

五月十日

お茶の水女子大学 文教育学部
附属幼稚園内 幼児教育研究会